

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2019-14501

(P2019-14501A)

(43) 公開日 平成31年1月31日(2019.1.31)

|                                |               |             |
|--------------------------------|---------------|-------------|
| (51) Int.Cl.                   | F 1           | テーマコード (参考) |
| <b>B 6 5 D 81/32 (2006.01)</b> | B 6 5 D 81/32 | K 3 E O 1 3 |
| <b>B 6 5 D 81/34 (2006.01)</b> | B 6 5 D 81/34 | U           |

審査請求 未請求 請求項の数 9 O L (全 23 頁)

|           |                              |          |                    |
|-----------|------------------------------|----------|--------------------|
| (21) 出願番号 | 特願2017-132061 (P2017-132061) | (71) 出願人 | 000223193          |
| (22) 出願日  | 平成29年7月5日 (2017.7.5)         |          | 東罐興業株式会社           |
|           |                              | (74) 代理人 | 100120868          |
|           |                              |          | 弁理士 安彦 元           |
|           |                              | (72) 発明者 | 相馬 克彦              |
|           |                              |          | 東京都品川区東五反田2丁目18番1号 |
|           |                              |          | 東罐興業株式会社内          |
|           |                              | (72) 発明者 | 堀田 裕亮              |
|           |                              |          | 東京都品川区東五反田2丁目18番1号 |
|           |                              |          | 東罐興業株式会社内          |
|           |                              | (72) 発明者 | 末永 響子              |
|           |                              |          | 東京都品川区東五反田2丁目18番1号 |
|           |                              |          | 東罐興業株式会社内          |

最終頁に続く

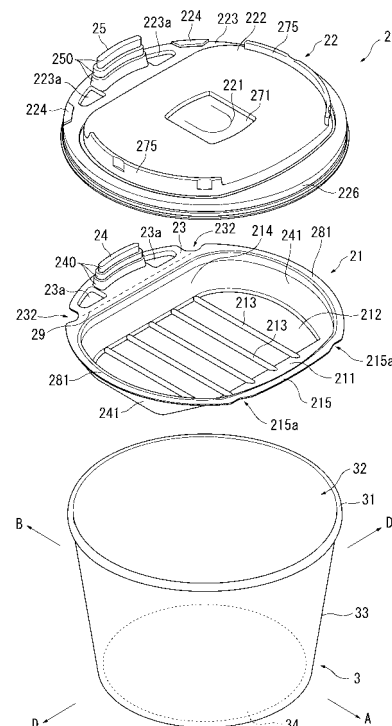
(54) 【発明の名称】 食品用容器の蓋体及び食品用容器

## (57) 【要約】

【課題】調理の過程で中皿に付着した水滴等が食卓や衣服等の上に付着するのを防止するとともに、極めて簡単な作業で、中皿に収容されている具材を米飯上に注ぎこませることができる食品用容器の蓋体を提供する。

【解決手段】開口部32を有する容器本体3に取り付けられる蓋体2であって、具材が収容される中皿21を備え、中皿21は、具材が載置される底板部212の周囲において、周壁部241と、周壁部241よりも緩やかに前方向に傾斜された前側傾斜部211と、前方向に対して略反対方向の後方向に位置する後側立上部214とが立ち上げられ、更に後側立上部214から後方向に延長された後板部23とを有し、後板部23は、上側に向けて突出されるとともに開口部32の上側に配置される中皿突出部24と、屈曲自在に構成される屈曲部29とを有することを特徴とする。

【選択図】 図2



**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

開口部を有する容器本体に取り付けられる食品用容器の蓋体であって、  
具材が収容される中皿を備え、

前記中皿は、前記具材が載置される底板部の周囲において、周壁部と、前記周壁部よりも緩やかに前方向に傾斜された前側傾斜部と、前記前方向に対して略反対方向の後方向に位置する後側立上部とが立ち上げられ、更に前記後側立上部から前記後方向に延長された後板部とを有し、

前記後板部は、上側に向けて突出されるとともに前記開口部の上側に配置される中皿突出部と、屈曲自在に構成される屈曲部とを有すること

を特徴とする食品用容器の蓋体。

10

**【請求項 2】**

前記中皿は、前記前側傾斜部から前方向に延長された前板部を有し、

前記前板部は、平面視で直線状又は前記周壁部の曲率よりも緩やかな曲率を持つ曲線状で形成され、前記前方向に対して直交する左右方向における端部が切り欠かれた前側切欠部が形成されていること

を特徴とする請求項 1 記載の食品用容器の蓋体。

**【請求項 3】**

前記中皿は、前記周壁部から径方向の外側に向けて延長された周板部を有し、中心よりも後方向に配置されるとともに前記後板部又は前記周板部の何れか一方又は両方が切り欠かれて形成される後側切欠部を有すること

を特徴とする請求項 1 又は 2 記載の食品用容器の蓋体。

20

**【請求項 4】**

前記屈曲部は、左右方向に延びるミシン目状に形成されること

を特徴とする請求項 1～3 の何れか 1 項記載の食品用容器の蓋体。

**【請求項 5】**

前記中皿を上から閉蓋する上蓋を更に備え、

前記上蓋は、前記中皿の前記中皿突出部が挿通される挿通部を有すること

を特徴とする請求項 1～4 の何れか 1 項記載の食品用容器の蓋体。

**【請求項 6】**

前記挿通部は、前記中皿突出部が嵌め込まれる形状に形成されること

を特徴とする請求項 5 記載の食品用容器の蓋体。

30

**【請求項 7】**

前記挿通部は、前記中皿突出部が貫通される貫通孔であること

を特徴とする請求項 5 又は 6 記載の食品用容器の蓋体。

**【請求項 8】**

前記上蓋は、前記後側切欠部に対向する位置に、上側及び前記上蓋の径方向の外側に向けて突出される外周突出部を有すること

を特徴とする請求項 5～7 の何れか 1 項記載の食品用容器の蓋体。

**【請求項 9】**

請求項 1～8 のうち何れか 1 項記載の食品用容器の蓋体と、

開口部を有する容器本体とを備え、

前記開口部に前記蓋体に取り付けられてなること

を特徴とする食品用容器。

40

**【発明の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

本発明は、米飯と具材を互いに空間的に分離して収容可能とされ、喫食時において米飯に具材を盛り付けることを前提とした食品用容器及びこれに適用される食品用容器の蓋体に関する。

50

## 【背景技術】

## 【0002】

スーパーマーケットやコンビニエンスストア等においては、麻婆丼、中華丼、牛丼、カツ丼等の各種丼物の食品が食品用容器に収容された状態で販売される。この食品用容器は一般的に米飯が収容される碗状の容器本体と、容器本体の上側から取り付けられ、惣菜等の具材が収容される蓋体とを備えて構成される。この食品用容器は、容器本体と蓋体に、米飯と具材とを互いに空間的に分離した状態で収容して販売し、消費者が喫食時において米飯に具材を盛り付けることを前提としたものである。食品用容器を購入した消費者は、必要に応じて、これら米飯や具材が収容された食品用容器を電子レンジにより加熱し、上蓋を開け、中皿に載置された具材を容器本体内の米飯上に盛り付けて喫食することができる。

10

## 【0003】

このような食品用容器の従来例としては、例えば特許文献1に示す開示技術が提案されている。この特許文献1には、容器本体と、容器本体の開口部の上面に載置される中皿と、容器本体に載置された中皿の上から容器本体の開口部の周縁を覆って容器本体に取り付けられる上蓋により構成される食品用容器の例が開示されている。この中皿に具材を収容し、容器本体に米飯を収容された状態で販売される。喫食時において消費者は、容器本体から上蓋を外し、容器本体から中皿を取り出す。そして、中皿上の具材を容器本体内の米飯上にかけて、空になった中皿は上蓋等の上に置く場合が多い。このような動作を経てようやく米飯上に具材を盛り付けて喫食することができるが、上述したように盛り付けに至るまでの工程が多く、消費者にとって煩わしさを感じさせてしまうという問題点があった。

20

## 【0004】

また、上述した従来の食品用容器に収容された丼物等を、事前に電子レンジで加熱調理した場合、容器本体に収容された米飯由来の水滴が中皿の底面に付着してしまう。この中皿の底面に付着した水滴が食卓に滴り落ちてしまう場合があり、或いはこの水滴が付着したまま中皿を食卓に載置した場合には、これを汚してしまう等の問題が生じる。また具材を米飯にかけ終わった後の中皿には、具材のソース類等が付着している場合が多いため、これらを食卓に載置した場合にはこれを汚してしまう等の問題が生じる。またこれら水滴や具材のソースが付着した中皿を使って上述した盛り付け操作を行う過程で手を汚してしまうことがあり、或いは衣服に汚れが付着してしまうこともあった。

30

## 【0005】

なお、上述した特許文献1の開示技術によれば、中皿上に付着した水蒸気や具材のソース等が垂れることを防止するため、中皿にかぶせ蓋を連結させる構成もある。しかしながら、この特許文献1の開示技術では、このかぶせ蓋を設けることによるコストの増加を招くばかりではなく、上述した具材の盛り付けに至るまでの作業の煩雑性を解消することはできなかった。

## 【先行技術文献】

## 【特許文献】

## 【0006】

【特許文献1】特開2005-59904号公報

40

## 【発明の概要】

## 【発明が解決しようとする課題】

## 【0007】

そこで本発明は、上述した問題点に鑑みて案出されたものであり、その目的とするところは、調理の過程で中皿に付着した水滴等が食卓や衣服等の上に付着するのを防止するとともに、極めて簡単な作業で、中皿に収容されている具材を米飯上に注ぎこませることができる食品用容器、及びこれに適用される食品用容器の蓋体を提供することにある。

## 【課題を解決するための手段】

## 【0008】

本発明者らは、上述した課題を解決するために、前方向に向けて延長されている前側傾

50

斜部と、上側に向けて突出されるとともに前記開口部の上側に配置される中皿突出部と、屈曲自在に構成される屈曲部とを有する蓋体を発明した。この中皿突出部を把持し、蓋体を僅かに持ち上げるのみで、具材の自重により屈曲部を屈曲させて前方向に具材を流下させて前側傾斜部まで誘導する。この前側傾斜部は、周壁部よりも緩やかに前方向に傾斜されているため、この前側傾斜部を介して具材をスムーズに容器本体内に落下させることが可能となる。

#### 【0009】

第1発明に係る食品用容器の蓋体は、開口部を有する容器本体に取り付けられる食品用容器の蓋体であって、具材が収容される中皿を備え、前記中皿は、前記具材が載置される底板部の周囲において、周壁部と、前記周壁部よりも緩やかに前方向に傾斜された前側傾斜部と、前記前方向に対して略反対方向の後方向に位置する後側立上部とが立ち上げられ、更に前記後側立上部から前記後方向に延長された後板部とを有し、前記後板部は、上側に向けて突出されるとともに前記開口部の上側に配置される中皿突出部と、屈曲自在に構成される屈曲部とを有することを特徴とする。

10

#### 【0010】

第2発明に係る食品用容器の蓋体は、第1発明において、前記中皿は、前記前側傾斜部から前方向に延長された前板部を有し、前記前板部は、平面視で直線状又は前記周壁部の曲率よりも緩やかな曲率を持つ曲線状で形成され、前記前方向に対して直交する左右方向における端部が切り欠かれた前側切欠部が形成されていることを特徴とする。

20

#### 【0011】

第3発明に係る食品用容器の蓋体は、第1発明又は第2発明において、前記中皿は、前記周壁部から径方向の外側に向けて延長された周板部を有し、中心よりも後方向に配置されるとともに前記後板部又は前記周板部の何れか一方又は両方が切り欠かれて形成される後側切欠部を有することを特徴とする。

#### 【0012】

第4発明に係る食品用容器の蓋体は、第1発明～第3発明の何れかにおいて、前記屈曲部は、左右方向に延びるミシン目状に形成されることを特徴とする。

#### 【0013】

第5発明に係る食品用容器の蓋体は、第1発明～第4発明の何れかにおいて、前記中皿を上から閉蓋する上蓋を更に備え、前記上蓋は、前記中皿の前記中皿突出部が挿通される挿通部を有することを特徴とする。

30

#### 【0014】

第6発明に係る食品用容器の蓋体は、第5発明において、前記挿通部は、前記中皿突出部が嵌め込まれる形状に形成されることを特徴とする。

#### 【0015】

第7発明に係る食品用容器の蓋体は、第5発明又は第6発明において、前記挿通部は、前記中皿突出部が貫通される貫通孔であることを特徴とする。

#### 【0016】

第8発明に係る食品用容器の蓋体は、第5発明～第7発明の何れかにおいて、前記上蓋は、前記後側切欠部に対向する位置に、上側及び前記上蓋の径方向の外側に向けて突出される外周突出部を有することを特徴とする。

40

#### 【0017】

第9発明に係る食品用容器は、第1発明～第8発明のうち何れかの食品用容器の蓋体と、開口部を有する容器本体とを備え、前記開口部に前記蓋体を取り付けられてなることを特徴とする。

#### 【発明の効果】

#### 【0018】

上述した構成からなる本発明によれば、中皿突出部を把持して持ち上げるだけという極めて簡単な作業で、中皿に収容されている具材を米飯上に注ぎこませることができる。従って、本発明によれば、具材を米飯上に注ぎこむ調理を極めて簡単に行うことができる。

50

これに加えて、本発明によれば、食品用容器を電子レンジで加熱し、中皿の底面に米飯由来の水滴が付着した場合においても、中皿突出部を把持して持ち上げるだけという極めて簡単な作業で調理を行うことができるため、かかる水滴が食卓や衣服等の上に付着するのを防止することができる。

【図面の簡単な説明】

【0019】

【図1】本発明の実施形態に係る食品用容器を示す斜視図である。

【図2】図1の食品用容器の蓋体と容器本体とを分解して示す斜視図である。

【図3】本発明の実施形態に係る蓋体を持ち上げて中皿上の具材を容器本体内の米飯上に盛り付ける様子を示す斜視図である。

【図4】(a)は、本発明の実施形態に係る蓋体における中皿の平面図であり、(b)は、その断面図を示している。

【図5】図4(a)のH-H'断面図である。

【図6】(a)は、本発明の実施形態に係る蓋体における上蓋の平面図であり、(b)は、その断面図を示している。

【図7】(a)は、容器本体に蓋体の中皿を取り付けた状態を示す断面図であり、(b)は、中皿に上蓋を取り付けた状態を示す断面図である。

【図8】(a)は、中皿の中皿突出部及び上蓋の挿通部を拡大して示す断面図であり、(b)は、中皿の後側凹部及び上蓋の後側凸部を拡大して示す断面図である。

【図9】本発明の実施形態に係る食品用容器を示す平面図である。

【図10】(a)は、蓋体が容器本体に取り付けられた状態を示す断面図であり、(b)は、蓋体を上側に持ち上げた状態を示す断面図であり、(c)は、蓋体をB方向が上になるように持ち上げた状態を示す断面図である。

【図11】(a)は、挿通部に挿通された中皿突出部を把持する前を示す断面図であり、(b)は、挿通部に挿通された中皿突出部を把持した後を示す断面図である。

【図12】(a)は、容器本体の縁部に支持された中皿の前板部を拡大して示す平面図であり、(b)は、中皿を持ち上げた直後の前板部を拡大して示す平面図である。

【図13】蓋体を持ち上げた状態を示す平面図である。

【図14】(a)は、本発明の実施形態に係る食品用容器の全体が包装用フィルムにより梱包された状態を示す断面図であり、(b)は、(a)の上蓋の凹み部を拡大して示す断面図である。

【図15】中皿突出部及び挿通部の第1変形例を示す斜視図である。

【図16】中皿突出部及び挿通部の第2変形例を示す斜視図である。

【図17】中皿突出部及び挿通部の第3変形例を示す斜視図である。

【図18】(a)は、中皿突出部が挿通部に挿通されて嵌め込まれる状態を示す断面図であり、(b)は、中皿突出部が挿通部に嵌め込まれることなく挿通される状態を示す断面図である。

【図19】(a)は、中皿突出部を挿通部に挿通する前の状態を示す断面図であり、(b)は、中皿突出部が挿通部に係止された状態を示す断面図である。

【図20】(a)は、上蓋のみを容器本体から取り外した状態を示す断面図であり、(b)は、中皿を上側に持ち上げた状態を示す断面図であり、(c)は、中皿をB方向が上になるように持ち上げた状態を示す断面図である。

【図21】前側傾斜部につき、断面視で緩やかなR曲線が形成される例を示す図である。

【図22】本発明の実施形態に係る食品用容器を複数個に亘って段積みをした状態を示す図である。

【発明を実施するための形態】

【0020】

以下、本発明の実施形態に係る食品用容器について図面を参照しながら説明する。

【0021】

図1は、本発明の実施形態に係る食品用容器1を示す斜視図である。図2は、図1の食

10

20

30

40

50

品用容器 1 の蓋体 2 と容器本体 3 とを分解して示す斜視図である。図 3 は、本発明の実施形態に係る蓋体 2 を持ち上げて中皿 2 1 上の具材 F を容器本体 3 内の米飯 R 上に盛り付ける様子を示す斜視図である。

#### 【0022】

食品用容器 1 は、米飯 R が収容される碗状の容器本体 3 と、容器本体 3 に上側から取り付けられ、惣菜等の具材 F が収容される蓋体 2 とを備えて構成されている。この食品用容器 1 は、容器本体 3 と蓋体 2 に、米飯 R と具材 F とを互いに空間的に分離した状態で収容して販売し、消費者が喫食時において米飯 R に具材 F を盛り付けることを前提としたものである。以下の実施の形態において、食品用容器 1 は、具材 F を米飯 R にかける丼物である場合を例にとり説明をする。具材 F とは、例えば麻婆丼、中華丼、カツ丼、エビチリ丼、親子丼、牛丼、カレーライス、ハヤシライス等の具に相当するものである。米飯 R については、これに限定されるものではなく、具材 F としてパスタソースを収容する場合にはパスタに代替されるものであってもよいし、その他麺類に代替されるものであってもよい。

10

#### 【0023】

容器本体 3 及び蓋体 2 は、本実施形態においては紙製又は樹脂製の部材で構成されている。容器本体 3 及び蓋体 2 は、樹脂製で構成される場合、例えばポリ塩化ビニル、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリエステル、ポリアミド、ポリカーボネート、エチレンビニルアルコール共重合体等の合成樹脂や、発泡スチロールなどの発泡材料等で構成されている。これら樹脂で構成する場合には、通常の押出成形に加え、射出成形、圧縮成形、注型成形等、いかなる成形方法により形成されるものであってもよい。

20

#### 【0024】

容器本体 3 は、上側に向けて平面視円形状に開口した開口部 3 2 と、開口部 3 2 の周囲を取り囲むように立設されている側板 3 3 と、底面を構成する底部 3 4 とを有している。側板 3 3 の上端に形成されている縁部 3 1 は、外側に向けて折り返されてなる。この縁部 3 1 を介して後述する蓋体 2 を支持することとなる。米飯 R はこの底部 3 4 及び側板 3 3 を介して外側に毀れることなく容器本体 3 に収容されることとなる。

#### 【0025】

蓋体 2 は、中皿 2 1 と、この中皿 2 1 に対して上から閉蓋するための上蓋 2 2 とを備えて構成される。

30

#### 【0026】

図 4 (a) は、本発明の実施形態に係る蓋体 2 における中皿 2 1 の平面図であり、図 4 (b) は、その断面図を示している。

#### 【0027】

中皿 2 1 は、具材 F を収容するための皿であり、平面視で略円形状に形成され、A 方向側が切欠 K により切り欠かれて形成される。中皿 2 1 は、底板部 2 1 2 と、底板部 2 1 2 から図中 A 方向（前方向）に向けて延長された前側傾斜部 2 1 1 と、底板部 2 1 2 から図中 B 方向（後方向）に向けて延長された後側立上部 2 1 4 とを有している。またこの中皿 2 1 は、前側傾斜部 2 1 1 から後側立上部 2 1 4 に至るまでに周壁部 2 4 1 が形成されている。中皿 2 1 は、更に前側傾斜部 2 1 1 の上端から A 方向に向けて延長された前板部 2 1 5 と、後側立上部 2 1 4 の上端から B 方向に向けて延長された後板部 2 3 と、周壁部 2 4 1 の上端から中皿 2 1 の径方向の外側に向けて延長された周板部 2 8 1 とを有して構成されている。

40

#### 【0028】

底板部 2 1 2 は、板状に形成され、中皿 2 1 の基底部分を構成する。この底板部 2 1 2 の上に実際の具材 F が載置されることとなる。底板部 2 1 2 の A 方向側の端部は、平面視で直線状で構成されるが、周壁部 2 4 1 の平面視での曲率よりも緩やかな曲率を持つ曲線状で構成されてもよい。底板部 2 1 2 の B 方向側の端部は、平面視で直線状で構成されるが、所定の曲率を持つ曲線状で構成されてもよい。また、底板部 2 1 2 の A 方向に対して水平に直交する図中 D 方向（左右方向）側の端部は、平面視で所定の曲率を持つ曲線状で

50

構成されるが、平面視で直線状で構成されてもよい。底板部 2 1 2 は、容器本体 3 内部に収容可能な形状、サイズとなるように構成される。

#### 【0029】

前側傾斜部 2 1 1、後側立上部 2 1 4、周壁部 2 4 1 は、底板部 2 1 2 の周端から起立して設けられ、容器本体 3 内部に収容可能な形状、サイズとなるように構成される。これら前側傾斜部 2 1 1、後側立上部 2 1 4、周壁部 2 4 1 は、底板部 2 1 2 上に載置された具材 F を周囲から囲い込むようにして立ち上げられていることで、これが毀れることなく収容することが可能となる。これら前側傾斜部 2 1 1、後側立上部 2 1 4、周壁部 2 4 1 は、底板部 2 1 2 から所定の角度を以って傾斜させた状態で立ち上げられる。これら前側傾斜部 2 1 1、後側立上部 2 1 4、周壁部 2 4 1 は、傾斜角度が上側に向かうにつれて全体が拡径されるように設定される。

10

#### 【0030】

このうち、特に前側傾斜部 2 1 1 は、中皿 2 1 上に載置された具材 F を容器本体 3 内に収容された米飯 R 上に流し込み易くするため、周壁部 2 4 1 よりも中皿 2 1 の径方向の外側に向けて緩やかに傾斜して起立した形状となっている。この前側傾斜部 2 1 1 の上端から A 方向に向けて延長された前板部 2 1 5 は、図 4 (a) に示すように、A 方向側で切欠 K に隣接して配置され、緩やかな曲率を持つ曲線状で構成されている。なお、前板部 2 1 5 は、平面視で直線状で構成されてもよい。また、前板部 2 1 5 は、D 方向の両端部に切り欠かれて形成された前側切欠部 2 1 5 a が形成される。なお、前板部 2 1 5 は、前側切欠部 2 1 5 a が省略されてもよい。

20

#### 【0031】

また前板部 2 1 5 の幅 W 1 は、容器本体 3 の開口部 3 2 の径よりも小さくなっている。その結果、この径小とされた前板部 2 1 5 を容器本体 3 の開口部 3 2 内に容易に落とし込ませることが可能となる。

#### 【0032】

後側立上部 2 1 4 は、図 4 (b) に示すように、中皿 2 1 の径方向の外側に向けて前側傾斜部 2 1 1 の傾斜よりも急な角度で傾斜して起立した形状とされている。なお後側立上部 2 1 4 は、中皿 2 1 の径方向の外側に向けて傾斜している場合に限定されるものではなく、垂直に立ち上げられていてもよい。

#### 【0033】

後側立上部 2 1 4 の上端から B 方向に向けて延長された後板部 2 3 は、平面視で B 方向側の端部が円弧状に形成される。後板部 2 3 は、上側に向けて突出される中皿突出部 2 4 と、D 方向の両端部に後板部 2 3 が切り欠かれて形成される後側切欠部 2 3 2 と、中皿突出部 2 4 と後側立上部 2 1 4 との間に設けられて屈曲自在に構成される屈曲部 2 9 と、中皿突出部 2 4 に D 方向の両側で隣接して設けられると共に下側に向けて凹ませて形成される後側凹部 2 3 a とを有する。

30

#### 【0034】

中皿突出部 2 4 は、D 方向が長手方向となるように延長される。中皿突出部 2 4 は、複数の段部 2 4 0 が形成され、上側に向かうにつれて各々の段部 2 4 0 が次第に縮径される。図 4 (b) に示す中皿突出部 2 4 は、段部 2 4 0 が 3 段で形成されるが、本発明における中皿突出部 2 4 は、段部 2 4 0 が如何なる段数であってもよい。また、本発明における中皿突出部 2 4 は、単に上側に向けて突出されて形成されるものであってもよく、平面視での形状についても矩形状、円形状等の如何なる形状で形成されてもよい。中皿突出部 2 4 は、A 方向側の突出面 2 4 a 及び B 方向側の突出面 2 4 b が、平面視で同一方向に向けて緩やかな曲率を持つように形成される。なお、中皿突出部 2 4 は、A 方向側の突出面 2 4 a 及び B 方向側の突出面 2 4 b とが平面視で互いに逆方向に向けて緩やかな曲率を持つように形成されてもよいし、A 方向側の突出面 2 4 a 及び B 方向側の突出面 2 4 b の何れか一方又は両方が平面視で直線状に形成されてもよい。

40

#### 【0035】

屈曲部 2 9 は、後板部 2 3 を屈曲させる機能を有し、D 方向に向けて直線状に延長され

50

たミシン目状に形成される。なお、屈曲部 2 9 は、これに限らず、後板部 2 3 を屈曲自在とするヒンジであってもよいし、D 方向に向けて延長された蛇腹状に形成されるものであってもよい。屈曲部 2 9 は、後板部 2 3 を屈曲自在にするものであれば如何なるものであってもよい。

#### 【0036】

図 4 (a) に示す形態において、後側切欠部 2 3 2 は、後板部 2 3 が切り欠かれて形成されて、中皿 2 1 の中心 P よりも B 方向側に配置される形態を図示しているが、本発明においては、後側切欠部 2 3 2 は、周板部 2 8 1 が切り欠かれて形成されてもよい。このとき、周板部 2 8 1 が切り欠かれて形成される後側切欠部 2 3 2 は、中皿 2 1 の中心 P よりも B 方向側に配置されていけばよい。即ち、本発明においては、中皿 2 1 の中心 P よりも B 方向側に配置されるとともに周板部 2 8 1 及び後板部 2 3 の何れか一方又は両方が切り欠かれて形成される後側切欠部 2 3 2 を有するものであればよい。また、図 4 (a) に示す形態において、後側切欠部 2 3 2 は、D 方向の両端部が切り欠かれることで 2 箇所形成される形態について図示したが、如何なる数量で形成されてもよい。

#### 【0037】

図 5 は、図 4 (a) の H-H' 断面図である。底板部 2 1 2 の D 方向の両側に周壁部 2 4 1 が上側に向けて拡張するように立設されている。周壁部 2 4 1 の上端には、中皿 2 1 の径方向の外側に向けて延長された周板部 2 8 1 を有する。周板部 2 8 1 は、平面視で円弧状で構成され、平面視における周板部 2 8 1 の曲率が、前板部 2 1 5 の A 方向側の端部の曲率よりも大きくなり、また後板部 2 3 の B 方向側の端部の曲率と略等しくなる。周板部 2 8 1 は、A 方向側で連続して設けられる前板部 2 1 5 と略同一平面を形成するように構成され、また B 方向側で連続して設けられる後板部 2 3 と略同一平面を形成するように構成されている。実際に蓋体 2 を容器本体 3 に取り付ける際において、周板部 2 8 1 及び後板部 2 3 を容器本体 3 の開口部 3 2 の周囲に位置する縁部 3 1 を介して下側から支持させる。

#### 【0038】

また中皿 2 1 には、図 4 (a) に示すように、前側傾斜部 2 1 1 から底板部 2 1 2 を経て後側立上部 2 1 4 へと連続する複数の凸状のリブ 2 1 3 が互いに平行に形成されている。リブ 2 1 3 は、これを構成する樹脂材料等が真空成形、圧空成形や射出成形等で成形されるものである。その輪郭は何れも丸みを帯びた流線形状となってもよい。このようなリブ 2 1 3 が形成されていることにより、中皿 2 1 に機械的な強度を与えることが可能となる。またリブ 2 1 3 が底板部 2 1 2 から前側傾斜部 2 1 1 へ向けた具材 F の流出方向としての A 方向と平行となるように形成されていることにより、中皿 2 1 内部に収容される具材 F をリブ 2 1 3 を介して案内させることで容易に A 方向に向けて流出させることが可能となる。

#### 【0039】

図 6 (a) は、本発明の実施形態に係る蓋体 2 における上蓋 2 2 の平面図であり、図 6 (b) は、その断面図を示している。上蓋 2 2 は、平面視で円形状に形成され、外観形状が複数の段を備えて形成された蓋体であり、最上位段に位置する第 1 上段部 2 2 2 と、第 1 上段部 2 2 2 よりも下段側に配置されると共に外側に向けて拡張した第 2 上段部 2 2 3 とを有する。

#### 【0040】

第 1 上段部 2 2 2 は、平面視で視認した場合において、図中 D 方向側については、緩やかな曲率を持つ曲線状の輪郭を構成し、図中 A 方向側については、図中 D 方向側の曲率よりも緩やかな曲率を持つ曲線状の輪郭を構成し、図中 B 方向側については、ほぼ直線状の輪郭を構成している。第 1 上段部 2 2 2 の略中央部分には、U 字状の切り込み 2 2 1 が形成され、この U 字状の切り込み 2 2 1 の形成位置及びその周囲においては、僅かに高さを低くした凹み部 2 7 1 が形成されている。この U 字状の切り込み 2 2 1 は、中皿 2 1 に載置された具材 F を電子レンジで加熱した際に発生する蒸気の放出口として形成されている。出荷時において、この切り込み 2 2 1 が単に導入された状態とされ、放出口がいわば閉



蓋された状態とされるが、消費者は、この切り込み 2 2 1 を把持し、これを上側に向けて押し上げることにより、切り込み 2 2 1 の根本がヒンジ状に折れ曲がり、放出口を開口することができる。或いは、消費者自らがこの切り込み 2 2 1 を開蓋することなく、加熱による蒸気によりこの切り込み 2 2 1 を自然に開蓋させるようにしてもよい。なお、本実施形態において、U 字状の切り込み 2 2 1 の形成位置及びその周囲において、凹み部 2 7 1 が形成される形態について説明したが、凹み部 2 7 1 は省略されてもよい。

#### 【0041】

第 1 上段部 2 2 2 は、D 方向の両端部側に上側に向けて突出される載置用凸部 2 7 5 を有し、載置用凸部 2 7 5 が平面視で円弧状に形成される。また、第 1 上段部 2 2 2 は、その外周端から下側に立ち下げられた上で上側に折り返されることで溝状に形成される溝部 2 2 2 a を有する。

10

#### 【0042】

第 2 上段部 2 2 3 は、平面視で円形状に形成される。第 2 上段部 2 2 3 は、上側に向けて突出される挿通部 2 5 と、第 2 上段部 2 2 3 の外周端から下側に向けて立ち下げられた平面視で円形状の最外周鏝部 2 2 6 と、第 2 上段部 2 2 3 の外周端に上側に向けて突出されると共に最外周鏝部 2 2 6 よりも上蓋 2 2 の径方向の外側に向けて僅かに突出される外周突出部 2 2 4 と、挿通部 2 5 に D 方向の両側で隣接して設けられると共に下側に向けて突出される後側凸部 2 2 3 a を有する。

#### 【0043】

挿通部 2 5 は、D 方向が長手方向となるように延長される。挿通部 2 5 は、複数の段部 2 5 0 が形成され、上側に向かうにつれて各々の段部 2 5 0 が次第に縮径される。図 6 (b) に示す挿通部 2 5 は、段部 2 5 0 が 3 段で形成されるが、本発明における挿通部 2 5 は、段部 2 5 0 が如何なる段数であってもよい。また、本発明における挿通部 2 5 は、単に上側に向けて突出されて形成されるものであってもよく、平面視で形状についても矩形状、円形状等の如何なる形状で形成されてもよい。挿通部 2 5 は、A 方向側の突出面 2 5 a 及び B 方向側の突出面 2 5 b が、平面視で同一方向に向けて緩やかな曲率を持つように形成される。なお、挿通部 2 5 は、A 方向側の突出面 2 5 a 及び B 方向側の突出面 2 5 b とが平面視で互いに逆方向に向けて緩やかな曲率を持つように形成されてもよいし、A 方向側の突出面 2 5 a 及び B 方向側の突出面 2 5 b の何れか一方又は両方が平面視で直線状に形成されてもよい。

20

30

#### 【0044】

図 7 (a) は、容器本体 3 に蓋体 2 の中皿 2 1 を取り付けした状態を示す断面図であり、図 7 (b) は、中皿 2 1 に上蓋 2 2 を取り付けした状態を示す断面図である。容器本体 3 に蓋体 2 を取り付けの際には、図 7 (a) に示すように、容器本体 3 における縁部 3 1 に対して、中皿 2 1 の周板部 2 8 1 及び後板部 2 3 を上側から近づけていくこととなる。その結果、中皿 2 1 における周板部 2 8 1 及び後板部 2 3 は、容器本体 3 の縁部 3 1 を介して下側から支持される。

#### 【0045】

そして、図 7 (b) に示すように、縁部 3 1 に支持された中皿 2 1 に対して、上蓋 2 2 を上側から近づけていくこととなる。このとき、第 1 上段部 2 2 2 の溝部 2 2 2 a が、中皿 2 1 の前側傾斜部 2 1 1、周壁部 2 4 1 及び後側立上部 2 1 4 に囲われる部分に嵌め込まれた状態となり、上蓋 2 2 が中皿 2 1 から外れることなく安定した状態で固定できる。また、容器本体 3 の縁部 3 1 は、第 2 上段部 2 2 3 に形成された最外周鏝部 2 2 6 を介して周囲から保持されることにより、容器本体 3 における縁部 3 1 及び中皿 2 1 が上蓋 2 2 の内部に収容された状態となり、蓋体 2 が容器本体 3 から外れることなく安定した状態で固定できる。

40

#### 【0046】

最外周鏝部 2 2 6 は、下端側が途中から外側に向けて傾斜を変化させることで拡径して形成されている。最外周鏝部 2 2 6 は、途中から外側に拡径される傾斜を形成することで、容器本体 3 の縁部 3 1 を上蓋 2 2 内に嵌め込む際における案内機能を果たすこととなる

50

。最外周鰐部 2 2 6 は、上蓋 2 2 の全周に亘って形成されることにより、運搬時の具材 F、米飯 R の漏れを強固に防止することが可能となる。

【0047】

なお、最外周鰐部 2 2 6 には、外側から内側に向けて凹ませた係止用凹部 7 1 を設けるようにしてもよい。係止用凹部 7 1 は、最外周鰐部 2 2 6 の外周に沿って連続的、又は断続的に設けられている。中皿 2 1 に対して上蓋 2 2 が閉じられた場合において、容器本体 3 の縁部 3 1 が係止用凹部 7 1 により係止されることとなり、その結果、容器本体 3 に対して上蓋 2 2 が簡単に外れてしまうのを防止することができる。

【0048】

図 8 (a) は、中皿 2 1 の中皿突出部 2 4 及び上蓋 2 2 の挿通部 2 5 を拡大して示す断面図であり、図 8 (b) は、中皿 2 1 の後側凹部 2 3 a 及び上蓋 2 2 の後側凸部 2 2 3 a を拡大して示す断面図である。図 8 (a) に示すように、挿通部 2 5 は、中皿突出部 2 4 が挿通され、中皿突出部 2 4 が嵌め込まれる形状に形成される。このため、中皿 2 1 における中皿突出部 2 4 を上蓋 2 2 における挿通部 2 5 に挿通させることで、中皿突出部 2 4 の各々の段部 2 4 0 が、挿通部 2 5 の各々の段部 2 5 0 に嵌め込まれた状態となり、上蓋 2 2 が中皿 2 1 から外れることなく安定した状態で固定できる。また、中皿突出部 2 4 は、挿通部 2 5 により覆われるものとなるため、ごみ等が挿通部 2 5 を介して中皿 2 1 に侵入するのを防止することが可能となる。また、図 7 (b) に示すように、中皿突出部 2 4 及びこれが挿通される挿通部 2 5 は、容器本体 3 の開口部 3 2 の上側に配置されるものとなる。

【0049】

また、図 8 (b) に示すように、中皿 2 1 の後側凹部 2 3 a は、上蓋 2 2 の後側凸部 2 2 3 a が挿通され、後側凸部 2 2 3 a が嵌め込まれる形状に形成される。このため、中皿 2 1 の後側凹部 2 3 a に上蓋 2 2 の後側凸部 2 2 3 a を挿通させることで、後側凸部 2 2 3 a が後側凹部 2 3 a に嵌め込まれた状態となり、上蓋 2 2 が中皿 2 1 から外れることなく安定した状態で固定できる。

【0050】

図 9 は、本発明の実施形態に係る食品用容器 1 を示す平面図である。図 9 に示すように、中皿 2 1 に対して上蓋 2 2 が閉じられた場合において、中皿 2 1 の後側立上部 2 1 4 が周壁部 2 4 1 よりも縁部 3 1 に対して離間して配置される。

【0051】

また、中皿 2 1 に対して上蓋 2 2 が閉じられた場合において、中皿 2 1 における後側切欠部 2 3 2 に対向する位置に、上蓋 2 2 における外周突出部 2 2 4 が配置されることとなる。外周突出部 2 2 4 が上側及び上蓋 2 2 の径方向の外側に向けて突出されていることにより、縁部 3 1 と外周突出部 2 2 4 との間には、外周突出部 2 2 4 の突出分に応じた隙間 3 0 1 が形成されることとなる。この隙間 3 0 1 は、外周突出部 2 2 4 と縁部 3 1 とが互いに当接されていない、いわば間隙が生じた状態となっている。この隙間 3 0 1 は、外部への蒸気の放出口として形成されており、中皿 2 1 に載置された具材 F を電子レンジで加熱した際において発生する蒸気の逃げ道とすることができる。

【0052】

次に、本発明を適用した食品用容器 1 の使用方法について説明をする。図 10 (a) は、蓋体 2 が容器本体 3 に取り付けられた状態を示す断面図であり、図 10 (b) は、蓋体 2 を上側に持ち上げた状態を示す断面図であり、図 10 (c) は、蓋体 2 を B 方向が上になるように持ち上げた状態を示す断面図である。

【0053】

実際にこの食品用容器 1 は、図 10 (a) に示すように、容器本体 3 に米飯 R が収容され、具材 F が蓋体 2 における中皿 2 1 に収容され、蓋体 2 における中皿 2 1 に対して上蓋 2 2 を閉蓋し、更にこの蓋体 2 を容器本体 3 に対して上から取り付けた状態で店頭で販売される。消費者は、この食品用容器 1 に収容された食品を購入し、例えば電子レンジ等により加熱をした後、これを喫食する際において、きわめて簡易な動作で中皿 2 1 に収容さ

10

20

30

40

50

れた具材 F を容器本体 3 内の米飯 R 上に注ぎ込むことができる。

【0054】

具体的には、消費者は、図 10 (b) に示すように、蓋体 2 を容器本体 3 から取り外す。このとき、消費者は、例えば挿通部 2 5 を介して中皿突出部 2 4 を把持し、中皿 2 1 及び上蓋 2 2 が一体となった状態で蓋体 2 を持ち上げることににより、蓋体 2 を容器本体 3 から取り外す。

【0055】

中皿 2 1 は、後板部 2 3 を屈曲自在に構成する屈曲部 2 9 を有しているため、蓋体 2 を容器本体 3 から取り外すことで、底板部 2 1 2 に収容される具材 F の自重により、屈曲部 2 9 を支点として後板部 2 3 が屈曲され、上蓋 2 2 に対して中皿 2 1 の底板部 2 1 2 が自然に開くこととなる。具材 F は、その自重により中皿 2 1 の A 方向に向けた前側傾斜部 2 1 1 側に徐々に流れていくこととなり、具材 F の重心が前側傾斜部 2 1 1 側に変位する結果、更に中皿 2 1 の底板部 2 1 2 が傾斜し、中皿 2 1 と上蓋 2 2 が互いに開くこととなる。このため、本発明によれば、具材 F を容器本体 3 内の米飯 R 上に注ぎ込ませることができる。なお、必要に応じて、消費者は、図 10 (c) に示すように、挿通部 2 5 を介して中皿突出部 2 4 を把持し、後板部 2 3 を傾斜させて蓋体 2 の B 方向が上になるように蓋体 2 を持ち上げてよい。これにより、具材 F の重心が前側傾斜部 2 1 1 側に変位しやすくなり、中皿 2 1 に載置された具材 F を容器本体 3 内の米飯 R 上に効率よく注ぎ込ませることができる。このように消費者は、挿通部 2 5 を介して中皿突出部 2 4 を把持し、中皿 2 1 及び上蓋 2 2 が一体となった状態で蓋体 2 を持ち上げる操作を行うだけで後は具材 F の自重により流し込みを完了させることができ、労力の負担を軽減させることができる。つまり消費者自身は蓋体 2 を持ち上げるというよりも、むしろ蓋体 2 を普通に開けるイメージで操作するだけで、後は具材 F が自然に容器本体 3 内に流下していくこととなる。

【0056】

即ち、上述した作用を起こさせるためには、A 方向に向けて延長されている前側傾斜部 2 1 1 と、上側に向けて突出される中皿突出部 2 4 と、後板部 2 3 を屈曲自在とする屈曲部 2 9 とを有している必要がある。この中皿突出部 2 4 を把持し、蓋体 2 を僅かに持ち上げるのみで、B 方向の略反対方向である A 方向に具材 F を流下させて前側傾斜部 2 1 1 まで誘導することができる。この前側傾斜部 2 1 1 は、周壁部 2 4 1 よりも緩やかに A 方向に傾斜されているため、前側傾斜部 2 1 1 を介して具材 F をスムーズに米飯 R 上に落下させることが可能となる。これに加えて、後板部 2 3 を屈曲自在とする屈曲部 2 9 を中皿 2 1 が有していることで、底板部 2 1 2 に載置された具材 F の自重により、屈曲部 2 9 を支点として屈曲させ、中皿 2 1 の底板部 2 1 2 を自然に開かせることが可能となる。

【0057】

特に、本発明によれば、屈曲部 2 9 がミシン目状に形成されることで、収容される具材 F の自重及び電子レンジによる加熱により、中皿 2 1 をミシン目状の屈曲部 2 9 で座屈しやすくすることができ、前側傾斜部 2 1 1 を介して具材 F をスムーズに米飯 R 上に落下させることが可能となる。また、ミシン目状の屈曲部 2 9 で中皿 2 1 を座屈させることで、流下させた具材 F を流下させた後に、その反動で中皿 2 1 が上蓋 2 2 に対して閉じられることなく、中皿 2 1 が上蓋 2 2 に対して開いた状態を保持することができる。その結果、中皿 2 1 に付着した具材 F の残り汁等が飛び散ることなく、テーブル等にこれが付着して汚すことを効果的に防止することができる。

【0058】

特に、本発明によれば、中皿突出部 2 4 が挿通部 2 5 に挿通されることで、中皿 2 1 と上蓋 2 2 とが一体となった状態で蓋体 2 を持ち上げることができる。そして、挿通部 2 5 を介して中皿突出部 2 4 を把持し、中皿 2 1 と上蓋 2 2 とが一体となった状態で僅かに蓋体 2 を持ち上げるのみで、B 方向の略反対方向である A 方向に具材 F を流下させて前側傾斜部 2 1 1 まで誘導することができる。このため、上蓋 2 2 を中皿 2 1 から取り外す手間を省略することができる。

【0059】

図11(a)は、挿通部25に挿通された中皿突出部24を把持する前を示す断面図であり、図11(b)は、挿通部25に挿通された中皿突出部24を把持した後を示す断面図である。特に、本発明によれば、図11(a)に示すように、中皿突出部24の各々の段部240が、挿通部25の各々の段部250に嵌め込まれた状態とされている。A方向からB方向において、中皿突出部24における各々の段部240の上端の寸法を、上段からL1、L2、L3とし、挿通部25における各々の段部250の下端の寸法を、上段からM1、M2、M3としたとき、各々の段部240が、各々の段部250に嵌め込まれた状態とされることから、 $L1 \leq M1$ 、 $L2 \leq M2$ 、 $L3 \leq M3$ の関係を満たすこととなる。そして、消費者が、挿通部25を介して中皿突出部24を把持した際には、図11(b)に示すように、例えば消費者の指の腹で挿通部25のA方向側の突出面25aとB方向側の突出面25bとの両方で挟むようにして把持することとなる。これにより、挿通部25が弾性変形されることとなり、挿通部25に挿通された中皿突出部24についても弾性変形するものとなる。その結果、 $L1 > M1$ 、 $L2 > M2$ 、 $L3 > M3$ の関係を満たすこととなる。即ち、段部240の上端の寸法が、当該段部240に対応する段部250の下端の寸法よりも大きくなるため、中皿21と上蓋22とが一体となった状態で蓋体2を持ち上げた際に、各々の段部240が各々の段部250に係止されることとなり、その結果、中皿突出部24が挿通部25から脱落するのを防止する効果をより高めることが可能となる。

10

#### 【0060】

本発明によれば、中皿突出部24におけるA方向側の突出面24a及びB方向側の突出面24bが、平面視で同一方向に向けて緩やかな曲率を持つように形成される。また、挿通部25におけるA方向側の突出面25a及びB方向側の突出面25bが、平面視で同一方向に向けて緩やかな曲率を持つように形成される。このため、消費者が挿通部25を介して中皿突出部24を把持するとき、消費者の指の腹の形状に沿って突出面25a、25bに接触されるため、挿通部25を介して中皿突出部24を把持し易くなる。

20

#### 【0061】

また、本発明によれば、図9に示すように、中皿21の後側立上部214が周壁部241よりも縁部31に対して離間して配置されるため、中皿21の中皿突出部24を把持して持ち上げた際に、容器本体3の縁部31に後側立上部214が引っ掛かるのを防止することができ、スムーズな引き上げをすることができる。また、中皿21が傾いた場合であっても、中皿突出部24及び挿通部25を把持している指に後側立上部214が当たらない為、火傷等を防止することができる。

30

#### 【0062】

本発明によれば、図4(b)に示すように、中皿21はA方向側が切欠Kを以って切り欠かれた構成とされている。このため、消費者が挿通部25を介して中皿突出部24を把持し、中皿21と上蓋22とが一体となった状態で蓋体2を持ち上げることにより、図10(b)及び図10(c)に示すように中皿21のA方向の端部に位置する前板部215を容器本体3の内部に落とし込ませることができる。また前板部215の幅W1は、容器本体3の開口部32の径よりも小さくなっているため、具材Fの自重により更に中皿21が傾斜した場合に、前板部215を容器本体3の内部に落とし込ませることができる。その結果、具材Fを容器本体3外に漏らすことなく、着実に容器本体3内に流し込むことができる。

40

#### 【0063】

図12(a)は、容器本体3の縁部31に支持された中皿21の前板部215を拡大して示す平面図であり、図12(b)は、中皿21を持ち上げた直後の前板部215を拡大して示す平面図である。特に、本発明によれば、図12(a)に示すように、中皿21の周板部281が容器本体3の縁部31に載置されており、前板部215の両端部に切り欠かれて形成される前側切欠部215aを有するものとなる。このため、本発明によれば、図12(b)に示すように、蓋体2の中皿21を持ち上げた直後において具材Fの自重により中皿21が傾斜した場合に、前板部215の前側切欠部215aが縁部31に係止さ

50

れることになり、中皿 2 1 が縁部 3 1 から急激に脱落するのを防止することができ、前板部 2 1 5 をスムーズに容器本体 3 の内部に落とし込ませることができる。その結果、具材 F を容器本体 3 外に漏らすことなく、着実かつスムーズに容器本体 3 内に流し込むことができる。

#### 【0064】

従って、この本実施形態によれば、中皿突出部 2 4 を把持して持ち上げるだけという極めて簡単な作業で、中皿 2 1 に収容されている具材 F を米飯 R 上に注ぎこませることができる。これに加えて、食品用容器 1 を電子レンジで加熱し、中皿 2 1 の底面に米飯由来の水滴が付着した場合においても、中皿突出部 2 4 を把持して持ち上げるだけという極めて簡単な作業で調理を行うことができるため、かかる水滴が食卓や衣服等の上に付着するのを防止することができる。

10

#### 【0065】

図 1 3 は、蓋体 2 を持ち上げた状態を示す平面図である。本発明によれば、図 1 3 に示すように、中皿 2 1 における後側切欠部 2 3 2 に対応する位置に、上蓋 2 2 における外周突出部 2 2 4 が配置され、後側切欠部 2 3 2 と外周突出部 2 2 4 との間には、外周突出部 2 2 4 の突出分に応じた隙間 3 0 1 ' が形成されることとなる。このため、中皿突出部 2 4 を把持して蓋体 2 を持ち上げた際には、後側切欠部 2 3 2 が米飯 R よりも上側に配置されることとなり、食品用容器 1 を電子レンジで加熱したことによる米飯 R 由来の蒸気が、この隙間 3 0 1 ' を逃げ道として、米飯 R よりも上側に向けて放出されることとなる。その結果、上蓋 2 2 の裏面に付着する水滴を減らすことができ、かかる水滴が食卓や衣服等の上に付着しにくくすることが可能となる。

20

#### 【0066】

更に本発明によれば、米飯 R 上に具材 F を注ぎ込んだ後には、蓋体 2 の上下を入れ替え、上蓋 2 2 が下側に、中皿 2 1 が上側となるようにテーブル等の上に載置することができる。その結果、中皿 2 1 に付着した具材 F の残り汁等を上蓋 2 2 で受けることができ、テーブル等にこれが付着して汚すことを効果的に防止することができる。

#### 【0067】

図 1 4 (a) は、本発明の実施形態に係る食品用容器 1 の全体が包装用フィルム 2 7 2 により梱包された状態を示す断面図であり、図 1 4 (b) は、上蓋 2 2 の凹み部 2 7 1 を拡大して示す断面図である。本発明によれば、図 1 4 (a) に示すように、容器本体 3 に上蓋 2 2 を取り付けの際に、中皿突出部 2 4 及び挿通部 2 5 が容器本体 3 の開口部 3 2 よりも上側に配置されることとなり、いわば持ち手として機能する中皿突出部 2 4 及び挿通部 2 5 が中皿 2 1 の径方向の外側に向けて突出されていないものとなる。米飯 R、具材 F を収容した食品用容器 1 は、店頭等での陳列時において、樹脂性の包装用フィルム 2 7 2 によりその全体が梱包された状態とされており、かかる梱包は、食品用容器 1 に米飯 R、具材 F を収容した工場等で行われる。本発明によれば、中皿突出部 2 4 が容器本体 3 の開口部 3 2 よりも上側に配置されることにより、工場等で包装用フィルム 2 7 2 により梱包する作業を容易に行うことができ、その結果、工場等での生産性を向上させることができる。

30

#### 【0068】

なお、本発明においては、食品用容器 1 を電子レンジ等で加熱する際には、樹脂性の包装用フィルム 2 7 2 により食品用容器 1 全体を梱包した状態で行う。このとき、図 1 4 (b) に示すように、切り込み 2 2 1 と包装用フィルム 2 7 2 との間には、凹み部 2 7 1 の深さに応じた隙間が形成されている。電子レンジにより加熱されることで、蓋体 2 内からの蒸気は、この切り込み 2 2 1 を押し開け、更に包装用フィルム 2 7 2 の微細な孔を通じて外部へと放出されることとなる。この切り込み 2 2 1 の押し開けが可能になる理由は、上述したように、切り込み 2 2 1 と包装用フィルム 2 7 2 との間には、凹み部 2 7 1 の深さに応じた隙間が形成され、この隙間の範囲内において切り込み 2 2 1 は自在に動くことができるためである。また、前述のように蓋体 2 の上下を入れ替えた際には、蓋体 2 とテーブル等との接地面に比べて、凹み部 2 7 1 が 1 段高い位置になるので、上蓋 2 2 で受け

40

50

止めた具材 F の残り汁等が、切り込み 2 2 1 から漏れ出てくるのを防止できる。

【0069】

図 1 5 は、中皿突出部 2 4 及び挿通部 2 5 の第 1 変形例を示す。中皿突出部 2 4 は、第 1 変形例において、上側に向けて突出されており、D 方向が短手方向となるように延長されて平面視で矩形状に形成される。また、挿通部 2 5 は、第 1 変形例において、上側に向けて突出されており、中皿突出部 2 4 が挿通されて嵌め込まれる平面視で矩形状に形成される。かかる形態において、消費者は、挿通部 2 5 の D 方向の突出面 2 5 d を指で挟むことで、挿通部 2 5 を介して中皿突出部 2 4 を把持し、中皿 2 1 と上蓋 2 2 とが一体となった状態で蓋体 2 を持ち上げ、必要に応じて後板部 2 3 を傾斜させて中皿 2 1 の B 方向が上になるように蓋体 2 を持ち上げる。その結果、消費者は、中皿突出部 2 4 を把持し、蓋体 2 を僅かに持ち上げる操作を行うだけで後は具材 F の自重により流し込みを完了させることができ、極めて簡単な作業で、中皿 2 1 に収容されている具材 F を米飯 R 上に注ぎこませることができる。

10

【0070】

中皿突出部 2 4 及び挿通部 2 5 は、D 方向を短手方向となるように延長されることで、D 方向を長手方向となるように延長されるよりも、具材 F が載置される底板部 2 1 2 を小さくすることができ、その結果、具材 F の量を少なくすることもできる。即ち、中皿突出部 2 4 及びこれが挿通される挿通部 2 5 は、例えば図 9 に示すように D 方向を長手方向となるように延長されるか、または例えば図 1 5 に示すように D 方向を短手方向となるように延長されるかについて、底板部 2 1 2 に載置される具材 F の量等の消費者のニーズに応じて適宜設定すればよいこととなる。また、中皿突出部 2 4 における D 方向側の突出面 2 4 d 及び挿通部 2 5 における D 方向側の突出面 2 5 d が、平面視で緩やかな曲率を持つように形成されてもよい。

20

【0071】

図 1 6 は、中皿突出部 2 4 及び挿通部 2 5 の第 2 変形例を示す。この中皿突出部 2 4 は、第 2 変形例において、上側に向けて突出されており、平面視で T 字形状に形成される。また、挿通部 2 5 は、第 2 変形例において、上側に向けて突出されており、中皿突出部 2 4 が挿通されて嵌め込まれる T 字形状に形成される。かかる形態においても同様に、消費者は、挿通部 2 5 の D 方向の突出面 2 5 d を指で挟むことで、挿通部 2 5 を介して中皿突出部 2 4 を把持し、中皿 2 1 と上蓋 2 2 とが一体となった状態で蓋体 2 を持ち上げ、必要に応じて後板部 2 3 を傾斜させて中皿 2 1 の B 方向が上になるように蓋体 2 を持ち上げる。その結果、消費者は、中皿突出部 2 4 を把持し、蓋体 2 を僅かに持ち上げる操作を行うだけで後は具材 F の自重により流し込みを完了させることができ、極めて簡単な作業で、中皿 2 1 に収容されている具材 F を米飯 R 上に注ぎこませることができる。

30

【0072】

図 1 7 は、中皿突出部 2 4 及び挿通部 2 5 の第 3 変形例を示す斜視図である。この中皿突出部 2 4 は、第 3 変形例において、上側に向けて突出されるものである。挿通部 2 5 は、第 3 変形例において、貫通孔であり、中皿突出部 2 4 が挿通されるものである。かかる形態において、消費者は、貫通孔である挿通部 2 5 に挿通された中皿突出部 2 4 を直接指で把持し、中皿 2 1 と上蓋 2 2 とが一体となった状態で蓋体 2 を持ち上げ、必要に応じて後板部 2 3 を傾斜させて中皿 2 1 の B 方向が上になるように蓋体 2 を持ち上げる。その結果、消費者は、中皿突出部 2 4 を把持し、蓋体 2 を僅かに持ち上げる操作を行うだけで後は具材 F の自重により流し込みを完了させることができ、極めて簡単な作業で、中皿 2 1 に収容されている具材 F を米飯 R 上に注ぎこませることができる。

40

【0073】

図 1 8 (a) は、中皿突出部 2 4 が挿通部 2 5 に挿通されて嵌め込まれる状態を示す断面図であり、図 1 8 (b) は、中皿突出部 2 4 が挿通部 2 5 に嵌め込まれることなく挿通される状態を示す断面図である。貫通孔で形成される挿通部 2 5 は、図 1 8 (a) に示すように、上側に向けて突出された中皿突出部 2 4 が挿通されて嵌め込まれてもよい。本発明によれば、この挿通部 2 5 に中皿突出部 2 4 が挿通されて嵌め込まれることで、中皿突

50

出部 2 4 と挿通部 2 5 との間に隙間が形成されないため、ごみ等が挿通部 2 5 を介して中皿 2 1 に侵入するのを防止することが可能となる。なお、貫通孔で形成される挿通部 2 5 は、図 1 8 (b) に示すように、中皿突出部 2 4 が嵌め込まれることなく、上側に向けて突出された中皿突出部 2 4 が単に挿通されてもよい。このとき、中皿突出部 2 4 と挿通部 2 5 との間には、隙間が形成されることとなる。

#### 【0074】

図 1 9 (a) は、中皿突出部 2 4 を挿通部 2 5 に挿通する前の状態を示す断面図であり、図 1 9 (b) は、中皿突出部 2 4 が挿通部 2 5 に係止された状態を示す断面図である。中皿突出部 2 4 は、図 1 9 (a) に示すように、上側に向けて突出され、貫通孔で形成される挿通部 2 5 に挿通される。この中皿突出部 2 4 は、下端から上側に向けて挿通部 2 5 よりも拡径された係止部 2 4 e を有し、係止部 2 4 e よりも上端側が縮径されて形成される。中皿突出部 2 4 を挿通部 2 5 に挿通する際には、図 1 9 (b) に示すように、中皿突出部 2 4 における係止部 2 4 e を挿通部 2 5 により弾性変形されて縮径させながら挿通部 2 5 に挿通する。そして、中皿突出部 2 4 をさらに挿通部 2 5 に挿通することで、縮径された係止部 2 4 e を再び拡開させて挿通部 2 5 に係止させる。このように、中皿突出部 2 4 は、挿通部 2 5 に係止される係止部 2 4 e を有するものであってもよい。なお、本発明では、中皿突出部 2 4 が挿通部 2 5 に係止される場合、上述した形態に限らず、挿通部 2 5 に係止されるものであれば如何なる形状であってもよい。

#### 【0075】

次に、本発明を適用した食品用容器 1 の他の使用方法について説明をする。食品用容器 1 は、容器本体 3 に米飯 R が収容され、具材 F が蓋体 2 における中皿 2 1 に収容され、蓋体 2 における中皿 2 1 に対して上蓋 2 2 を閉蓋されている。図 2 0 (a) は、上蓋 2 2 のみを容器本体 3 から取り外した状態を示す断面図であり、図 2 0 (b) は、中皿 2 1 を上側に持ち上げた状態を示す断面図であり、(c) は、中皿 2 1 を B 方向が上になるように持ち上げた状態を示す断面図である。

#### 【0076】

具体的には、先ず消費者は、図 2 0 (a) に示すように、蓋体 2 の上蓋 2 2 のみを容器本体 3 から取り外す。このとき、消費者は、例えば挿通部 2 5 を把持して持ち上げることで、上蓋 2 2 のみを容器本体 3 から取り外す。その後、消費者は、図 2 0 (b) に示すように、直接中皿突出部 2 4 を把持し、蓋体 2 の中皿 2 1 のみを持ち上げることで、蓋体 2 を容器本体 3 から取り外す。

#### 【0077】

中皿 2 1 は、後板部 2 3 を屈曲自在に構成する屈曲部 2 9 を有しているため、蓋体 2 の中皿 2 1 のみを容器本体 3 から取り外すことにより、収容される具材 F の自重により、屈曲部 2 9 を支点として後板部 2 3 が屈曲され、中皿 2 1 の底板部 2 1 2 が自然に傾斜することとなる。具材 F は、その自重により中皿 2 1 の A 方向に向けた前側傾斜部 2 1 1 側に徐々に流れていくこととなり、具材 F の重心が前側傾斜部 2 1 1 側に変位する結果、更に中皿 2 1 の底板部 2 1 2 が傾斜することとなる。このため、本発明によれば、具材 F を容器本体 3 内の米飯 R 上に注ぎ込ませることができる。なお、必要に応じて、消費者は、図 2 0 (c) に示すように、中皿突出部 2 4 を直接把持し、後板部 2 3 を傾斜させて中皿 2 1 の B 方向が上になるように蓋体 2 を持ち上げてよい。これにより、具材 F の重心が前側傾斜部 2 1 1 側に変位しやすくなり、中皿 2 1 に載置された具材 F を容器本体 3 内の米飯 R 上に効率よく注ぎ込ませることができる。このように消費者は、蓋体 2 の上蓋 2 2 を取り外した上で、中皿突出部 2 4 を直接把持し、蓋体 2 の中皿 2 1 を持ち上げる操作を行うだけで後は具材 F の自重により流し込みを完了させることができ、労力の負担を軽減させることができる。

#### 【0078】

なお、本発明によれば、例えば、図 2 1 に示すように前側傾斜部 2 1 1 につき、断面視で緩やかな R 曲線が形成されるものであってもよい。これにより、具材 F を容器本体 3 に流し込む上で中皿 2 1 を傾けた際において、具材 F が前側傾斜部 2 1 1 に滞留することな

10

20

30

40

50

くスムーズな流し込みを実現することが可能となる。

【0079】

また、本発明によれば、図6に示すように、上蓋22において、第1上段部222には、D方向側の両端部側に載置用凸部275を有し、第2上段部223には、上側に向けて突出された挿通部25を有する。このため、図22に示すように、食品用容器1を複数個に亘って段積みをした場合に、下段の食品用容器1における上蓋22の第1上段部222に上段の食品用容器1における容器本体3の底部34を載置したとき、上段の食品用容器1の容器本体3の側板33が、下段の食品用容器1における載置用凸部275及び上側に向けて突出された挿通部25に囲われることとなり、その結果、段積みした複数の食品用容器1が崩れることなく安定させることが可能となる。

10

【0080】

以上、本発明の実施形態の例について詳細に説明したが、上述した実施形態は、何れも本発明を実施するにあたっての具体化の例を示したものに過ぎず、これらによって本発明の技術的範囲が限定的に解釈されてはならないものである。

【符号の説明】

【0081】

|      |           |
|------|-----------|
| 1    | : 食品用容器   |
| 2    | : 蓋体      |
| 21   | : 中皿      |
| 211  | : 前側傾斜部   |
| 212  | : 底板部     |
| 213  | : リブ      |
| 214  | : 後側立上部   |
| 215  | : 前板部     |
| 215a | : 前側切欠部   |
| 22   | : 上蓋      |
| 23   | : 後板部     |
| 23a  | : 後側凹部    |
| 24   | : 中皿突出部   |
| 24a  | : 突出面     |
| 24b  | : 突出面     |
| 24d  | : 突出面     |
| 24e  | : 係止部     |
| 25   | : 挿通部     |
| 25a  | : 突出面     |
| 25b  | : 突出面     |
| 25d  | : 突出面     |
| 221  | : 切り込み    |
| 222  | : 第1上段部   |
| 222a | : 溝部      |
| 223  | : 第2上段部   |
| 223a | : 後側凸部    |
| 224  | : 外周突出部   |
| 226  | : 最外周鏢部   |
| 232  | : 後側切欠部   |
| 240  | : 段部      |
| 241  | : 周壁部     |
| 250  | : 段部      |
| 271  | : 凹み部     |
| 272  | : 包装用フィルム |

20

30

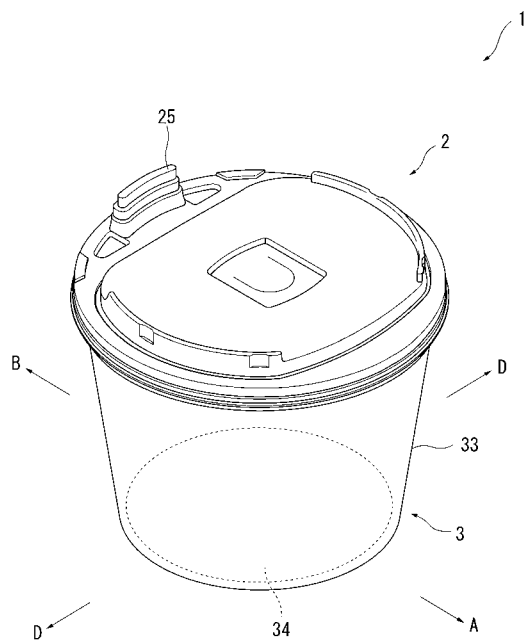
40

50

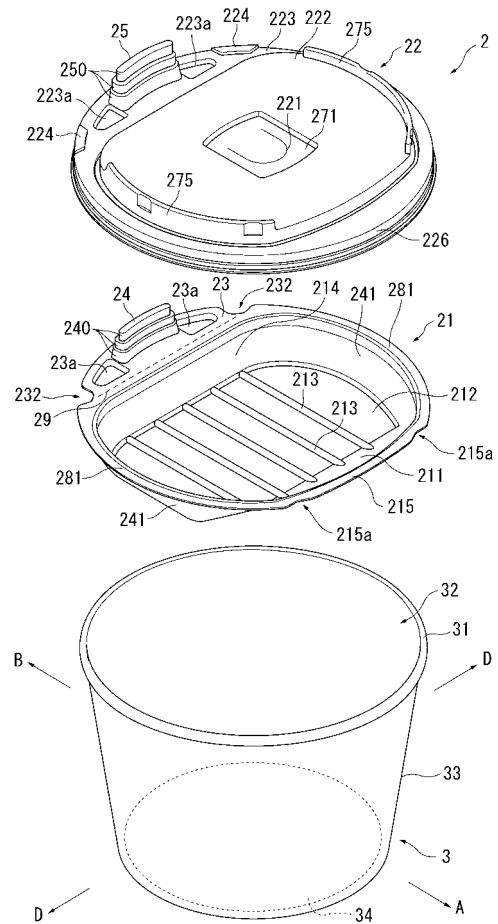


- 2 7 5 : 載置用凸部  
 2 8 1 : 周板部  
 7 1 : 係止用凹部  
 3 : 容器本体  
 3 1 : 縁部  
 3 2 : 開口部  
 3 3 : 側板  
 3 4 : 底部  
 3 0 1 : 隙間  
 3 0 1 ' : 隙間  
 K : 切欠  
 P : 中心  
 F : 具材  
 R : 米飯

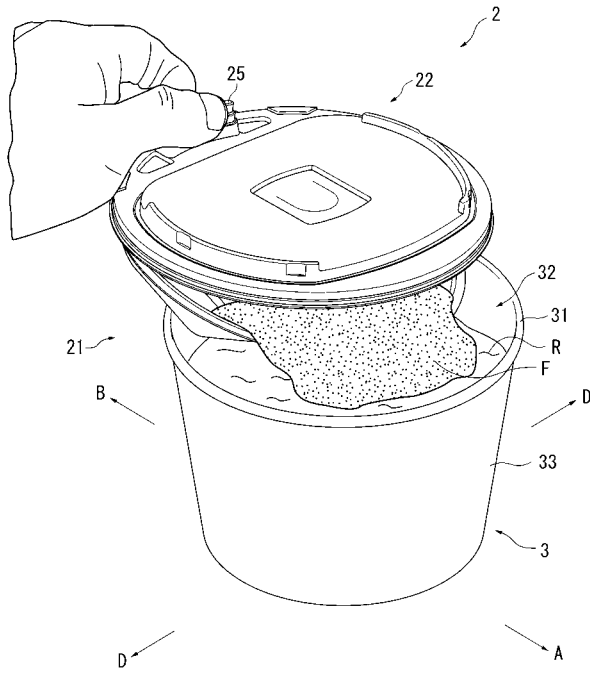
【図 1】



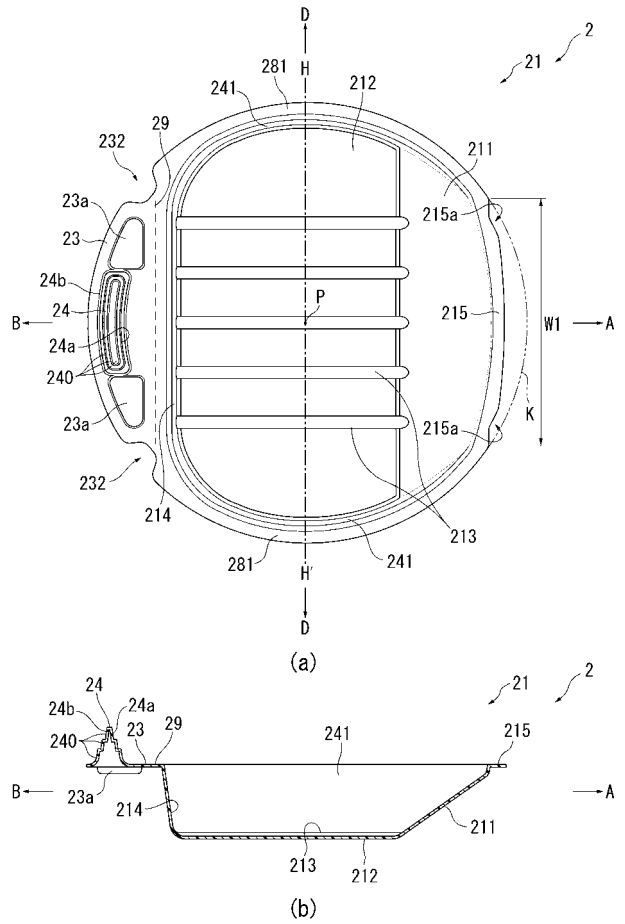
【図 2】



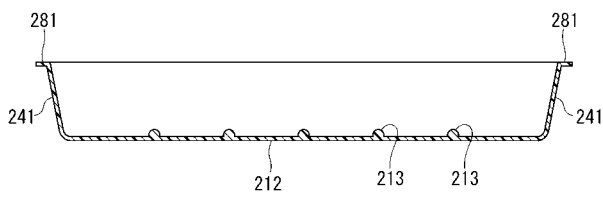
【図 3】



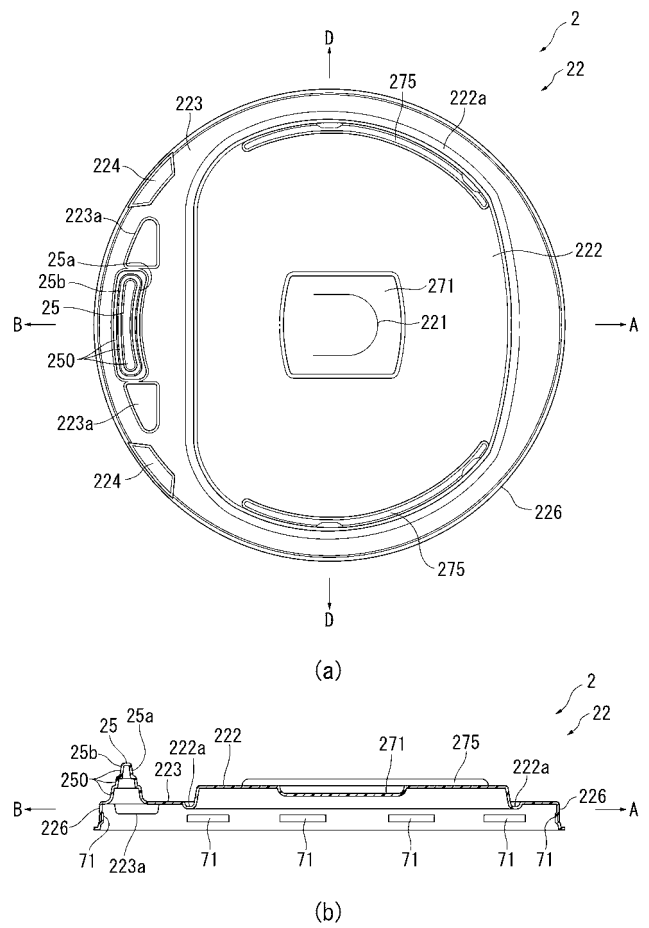
【図 4】



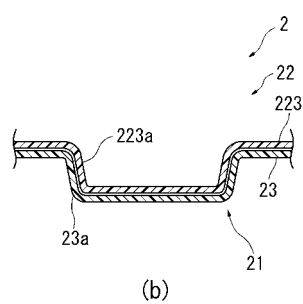
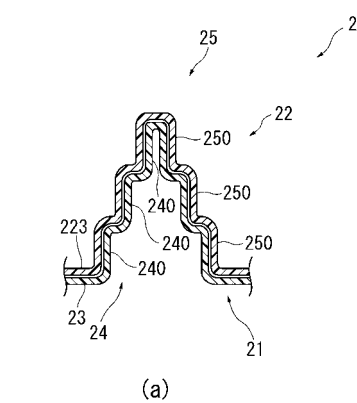
【図 5】



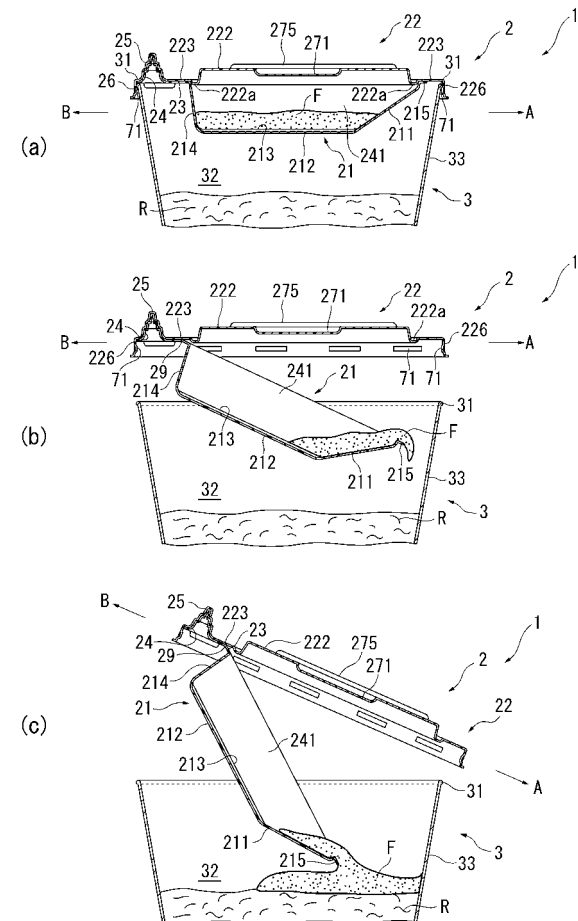
【図 6】



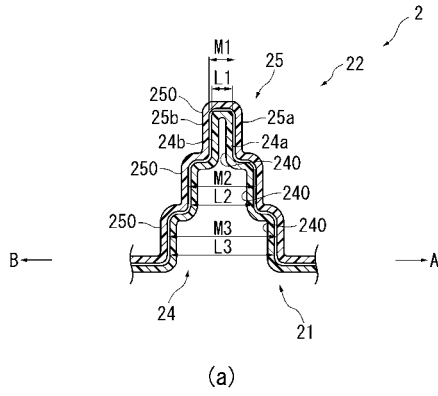
【图 8】



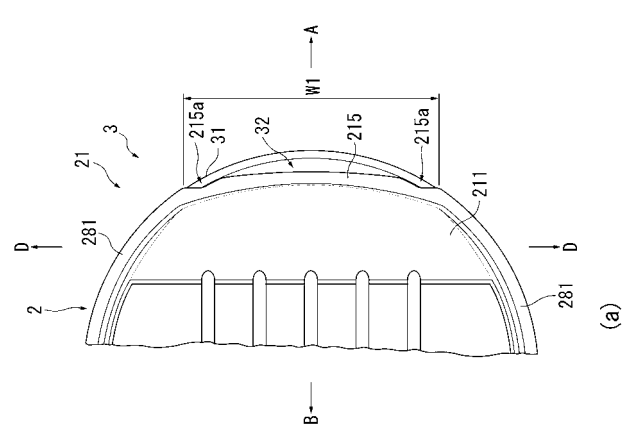
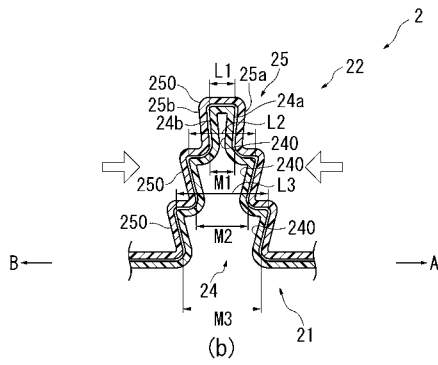
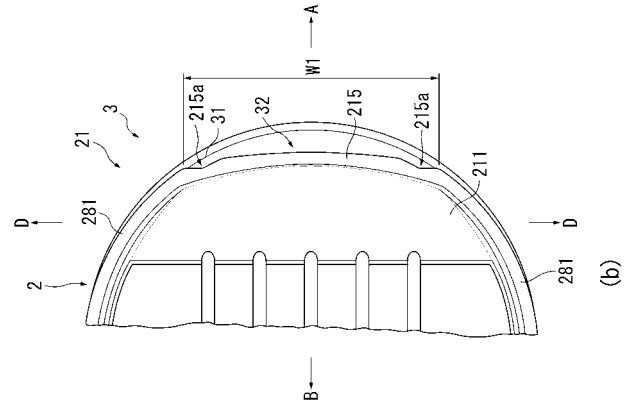
【図 10】



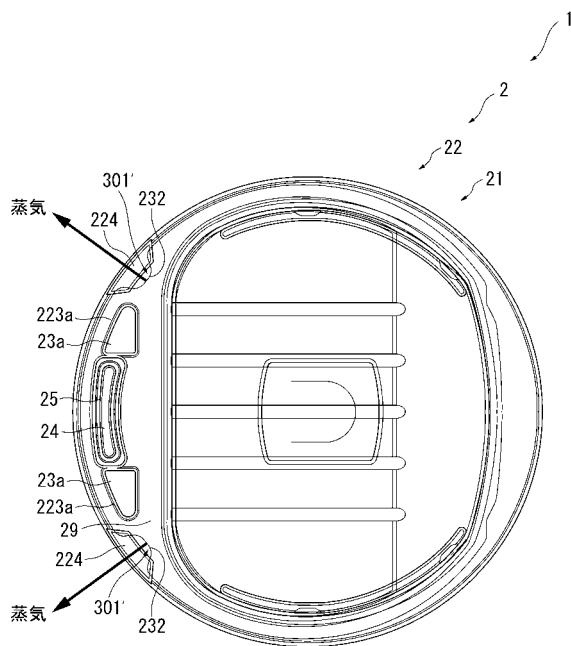
【図 1 1】



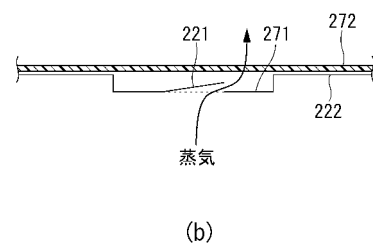
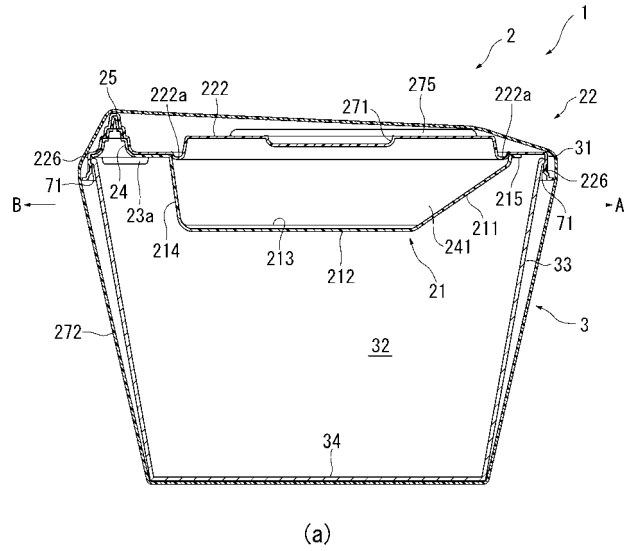
【図 1 2】



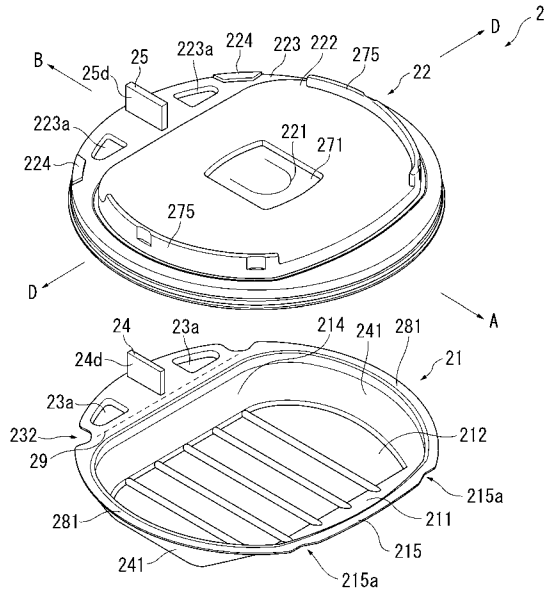
【図 1 3】



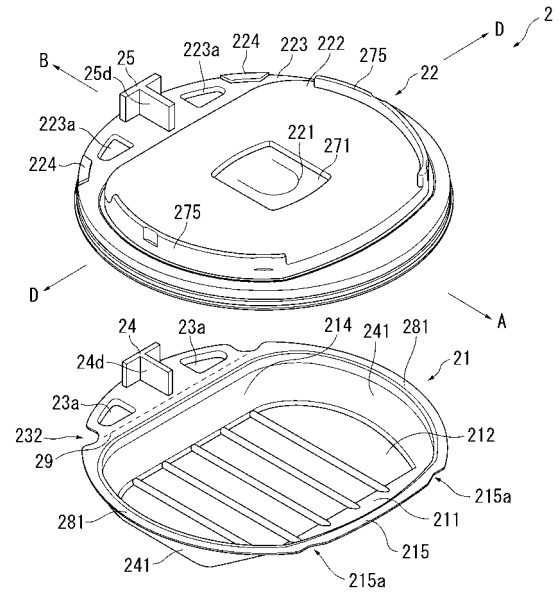
【図 1 4】



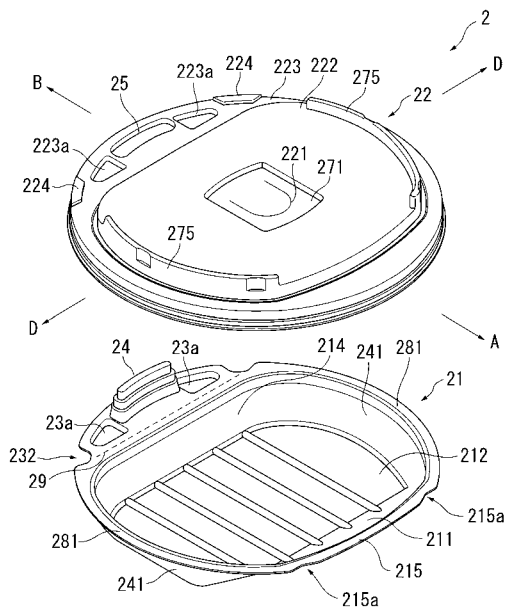
【図 15】



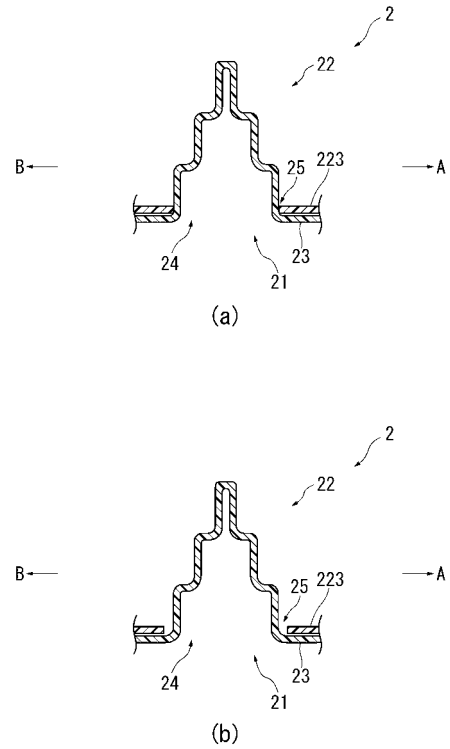
【図 16】



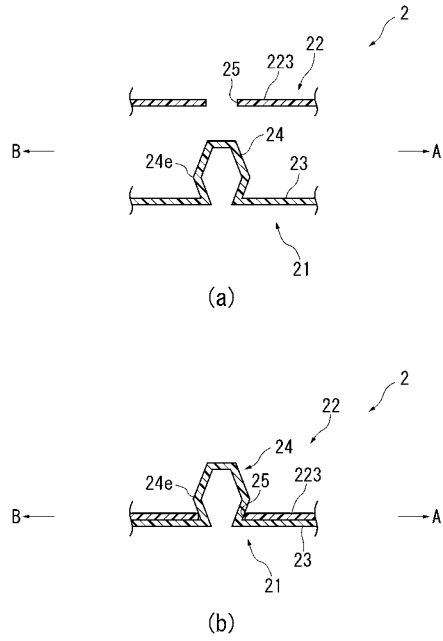
【図 17】



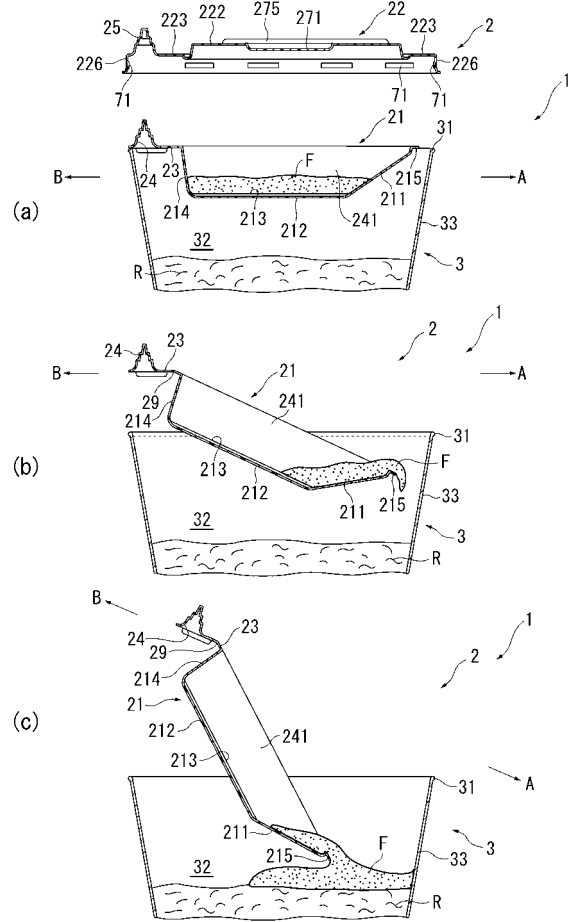
【図 18】



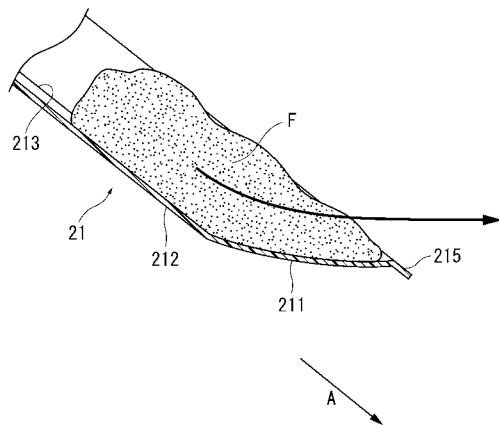
【図 19】



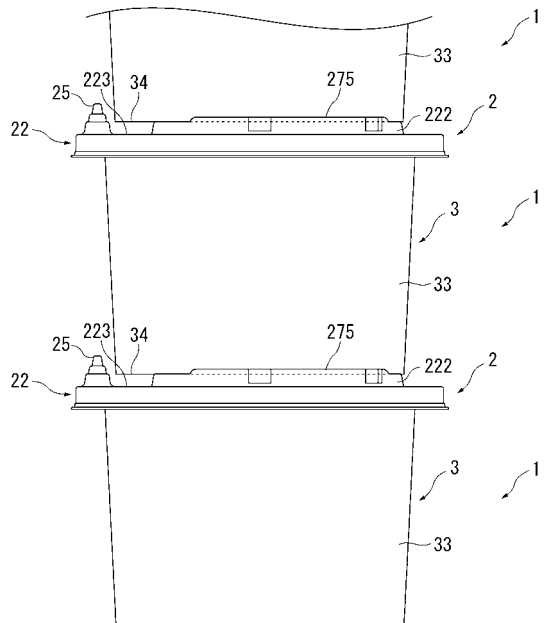
【図 20】



【図 21】



【図 22】



---

フロントページの続き

Fターム(参考) 3E013 AA05 AB01 AC13 AD12 AE06 AF17 AF25 BA24 BB06 BC04  
BC05 BD02 BD11 BE01 BF02 BF22 BF24